



Thermik 2020 (vol. 32)

九州大学航空部

2021年1月17日発行

Thermik 2020(vol32)

1 巻頭言	主将 矢野 智幸	3
2 ごあいさつ	部長 東野 伸一郎	4
3 ごあいさつ	監督 牧田 厚雄	6
4 部員より		9
○航空部に入部するまで	共創学部1年 長田 百合香	
○憧れた空	農学部1年 亀田 優花	
○空への道	工学部1年 難波 優希	
○初合宿を終えて	工学部1年 山下 英哲	
○今年を振り返って	工学部2年 青木 俊樹	
○転換と今後の目標	工学部2年 阿部 美咲 /会計	
○リスタート	工学部2年 太田 慎吾 /主務	
○世と空とを眺めて	工学部2年 善甫 優晟	
○2年目の進化	工学部2年 望月 啓世	
○航空部に入ってみて	工学部2年 矢野 智幸 /主将	
○航空部と私	法学部3年 河野 巧	
○航空部とはなんだったのか	工学部4年 溝渕 智也	
○生存報告	理学部5回 松村 彩郁	
○7年目の人から	工学部7回 堤 雅貴	
5 会計報告	会計 阿部 美咲	22
6 活動報告		26
7 活動風景@2020		29
7 編集後記	編集 善甫 優晟	33

巻頭言

今年もテルミックを発行する季節となりました。OB、OGの皆さまはどのようにお過ごしでしょうか。

現在、我が九大航空部では、15人の部員で日々の活動に頑張っております。今年度は、新型コロナウイルスの影響により思うように活動を進めることができませんでしたが、臨機応変に対応しできることを確実に進めてきたのではないかと思います。この場にて今年の活動の簡単な報告をさせていただきたいと思います。

1月は三連休で九大合宿を行いました。3日間とも天候に恵まれフライトを行うことができました。中でも2日目は北西風が強く、権現山を利用したリッジソアリングを楽しむことができ、参加者全員が30分ほどのフライトを楽しむことができました。また、その翌週の熊大合宿で2年矢野がファースト、セカンドソロに出ることができました。

2月は七大戦が行われるとのことで関宿に行きました。しかしながら、このころから新型コロナウイルスの影響が現れはじめ、結局競技はなし。2日間クルーフライトのみを行いました。しかしながら、条件は二日とも非常によく関宿を満喫することができ、関宿を体験するという上では非常に良い合宿でした。

4月は新型コロナウイルスの影響で課外活動は停止。学校の授業の方も休みとなり、オンラインでの新歓活動を積極的に行いました。その結果5名の新入生を迎え入れることができました。

5～8月は課外活動停止。授業はすべてオンライン。部員同士のコミュニケーションもすべてがオンラインツール（zoom、Skype、LINEなど）で行いました。

9月より課外活動の再開が許可され合宿も再開できるようになりました。NPO合宿の方に部員4名参加。久しぶりの久住で7カ月ぶりのフライト。とても気持ちよかったです。

10月NPO合宿にて新入生が初合宿。初日は雨の影響で格納庫にて搭乗手順などの確認。二日目は天候に恵まれ無事新入生も初フライトを行うことができました。

11月今年度初の九大主幹の合宿を実施。2年矢野初班長。白雲の耐空検査を実施。新入生はランウェイワークにもだんだん慣れ、2年生以上は系の教習を積極的に実施しました。

12月白川九大合宿。2年阿部初班長。二日とも穏やかな練習日和で。2日間で74発飛ばし一人当たり5、6発飛ばすことができました。2年阿部がピスト係認定されました。

今年度はコロナ渦にも関わらず5名もの新入部員を入れることができ、多くの上回生が積極的に合宿に参加し教習やフライトを行っております。来年度以降もより多くの新入生にグライダーの楽しさというものを伝えられるよう頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、今年もOB、OG様のご支援のおかげで無事活動を行うことができましたこと、部員一同感謝しております。来年も何卒よろしく願いいたします。

九州大学航空部 主将 矢野 智幸

～部長先生より～

ごあいさつ

九州大学航空部 部長 東野 伸一郎

皆さまお元気でお過ごしのことと思います。例年よりもやや遅めですが、今年もテルミックをお届けする季節となりました。世界中いたるところでコロナによる影響が続いており、大変な思いをされておられる方も多いと思います。航空部の活動にも大きく影響しました。国内での感染拡大が広がり始めたのがちょうど1年間の活動の境目となる3月であったため、4月の大学の入学式の中止や講義のリモート化とあいまって、必然的に課外活動は一時中止となりました。これで新入生の勧誘がうまくいくのか、大変心配したところでしたが、逆にSNSなどによって意外と昨年並みの新入生の入部があったようで、これは一安心でした。毎年、どうすれば新入生の勧誘がうまくいくのか、これまで学生諸君はいろいろと工夫を凝らしてきてくれていましたが、これでまたひとつノウハウを得たかもしれません。残念ながら例年のような新入生の歓迎コンパも開ける状況ではないため、私もまだ顔を見たこともない学生もいますが、ぜひ4年間続けていってほしいと願うとともに、来年度も例年並みの人数が入部してくれれば、各学生の負担も分散し、部としても安定してくるのではないかと感じているところです。

コロナの第一波が落ち着きをみせたあと、7月末から大学としての課外活動の再開が認められるようになりました。最初はNPO九州の合宿に参加する形で数名の学生が訓練を行いはじめ、九大主幹の第1回合宿訓練が実施できたのは、11月に入ってからのこととなりました。個人的にも楽しみにしていた、条件が非常によくあるゴールデンウィークに飛ぶことができなかったことは、学生、特に新入部員にとっても非常に残念なことでしたが、あまり長いブランクを経ずに訓練が再開できたことは大変ありがたいことでした。11月以降はほぼ順調に合宿訓練はできているようです。時々、他の課外活動でコロナ感染者が確認されるたびに一旦活動停止となり、数日してまた再開される、という状況が繰り返されておりますが、今のところ大きな影響はないようです。久住滑翔大会や新人戦、支部競技会などはすべて中止となりました。例年、多数のOB・OGのみなさまにご支援いただいている七大戦も中止が決定されました。昨年中止された全国大会は行われるようですが、西部地区からはライセンスが在籍する九工大チームが出場の予定です。

コロナ関係の暗い話題はここまでとして、明るいニュースを2つお届けします。航空部OB(86年卒)の中島康さんが、10月に教育証明を取得されました。中島さんは航空部学生の意識改革のために昨年からの定期的な学生とのミーティングも行ってきていただいております。もうひとつは、牧田監督が学連西部地区の訓練所長に1月よりご就任されました。牧田監督はまた日本滑空協会の理事にもご就任されております。まだお仕事をもち

ちですので、訓練所長はフルタイムではありませんが、皆で協力体制を作りながら、新しい風で西部のライダー界の発展にご尽力いただけるものと確信しております。

今年はOB会も中止となり、OB・OGのみなさまと現役学生とが接する機会が残念ながらありませんでしたが、現役学生への支援金についても多くのみなさまにご協力いただきしており、ここに厚く御礼申し上げる次第です。ライセンスが近い現役学生もおりますので、引き続き暖かいご支援をいただければと思います。また、坂本様からは、トレーラヒッチ付きの車を現役学生にご寄付いただきました。これまで非常に古い部車をなだめすかして乗っていたようです。厚く御礼申し上げます。

それでは一日もはやいコロナの終息ともとの日常への復帰、そして安全なフライトを祈念するとともに、OB・OGの皆様方のご健康と益々のご発展を祈念して筆をおきたいと思っております。

～監督より～

ごあいさつ

九州大学航空部 監督 牧田 厚雄

九州大学航空部OB/OGの皆さま、お元気でお過ごしのことと思います。3年ぶりとなりますが、休刊しておりました恒例のテルミックをお届けする時期となりました。2020年はやはりCOVID-19の話題となるのですが、グライダー界も社会人・学生共に活動が大幅に制限された一年でした。しかしながら、そのような環境でも九大航空部は大きな成果を挙げられた年だったと思います。そこで、簡単に一年を振り返って見たいと思います。

2020年1月の九大合宿@白川滑空場（熊本市西区）では当時1年生だった現主将の矢野君が初ソロにでることができました。活動一年目でのソロは他大学でもあまり例のないことですが、本人は多くの合宿に参加して技量を伸ばした努力の成果だと思っています。

2月には例年通り第59回七大戦@関宿滑空場（千葉県）に参加しました。結果として、コロナの影響が顕著になりだした時期でもあり、慣熟飛行とDay1終了で中止となりました。しかしながら、条件の良い関宿滑空場で選手・スタッフは上限高度の6,000ftに届くフライトを数多く体験でき、関宿慣熟は十分に達成できました。

その後、3月以降はコロナ自粛となり、九大航空部として活動再開となったのは11月の久住合宿からとなりました。その間、大学の授業と新人勧誘も全面On Lineとなり対面での勧誘が出来なくなりながらも、今年の新入部員は5名（女性2名）と期待以上でした。また、現在の2年生で活動継続者は6名であり、部員数全体で2桁に届く陣容になったことは喜ばしいことです。

10月にはOB（86年卒）の中島康氏が北海道の滝川で見事操縦教育証明実地試験に合格されました。九大航空部出身の教官誕生は本当に久しぶりのことだと思います。今後のご活躍を大いに期待します。更に若手の教官が誕生するよう、中島教官と共に努力して参りたいと考えます。教官のみならず、グライダー人口の高齢化は日本のグライダー界の共通課題です。九大OB/OGの皆さま、若いころは仕事・家庭と諸々制約がありますが、空の方も忘れずにグライダーに復帰されませんか。そして、九州に近い方はNPO九州グライダースポーツ連盟（HP新しくなりました：<http://q-glider.com/>）で飛びましょう。九大合宿にもOB/OGとして参加頂くのはWelcomeです。

11月には正式に大学より九大航空部としての活動再開が許可され久住合宿、その後の12月には白川合宿と続けて開催できました。今後、コロナが沈静化して、通常通りの活動ができることを期待しますが、残念ながら2021年2月の第60回となる予定だった七大戦は中

止となりました。それでは、OB/OGの皆様方のご健康と益々のご発展を祈念して筆をおきたいと思います。(次頁に七大戦, 久住・白川合宿の写真を掲載します。)

2020年2月第59回七大戦@関宿滑空場



九大11月合宿@久住 三密回避・マスク着用



九大12月合宿@白川(熊本) ASK13の組立



～部員より～

航空部に入部するまで

共創学部1年 長田 百合香

私は九大のホームページで「航空部」という文字を見つけたときから入部することを決めていた。私は小学生のころ、女性がパイロットとして飛行機を操縦するドラマを見て、自分も飛行機を飛ばしたい、世界中を飛び回りたいと思った。パイロットは憧れから夢へと変わり、今もその夢は変わりません。訓練をして実際にグライダーを操縦できる航空部は、私の夢を後押ししてくれると思います、入部を決めた。

自分でグライダーが操縦できることを期待して入部したが、コロナの影響で体験搭乗や合宿などの活動はなかなかできず、はじめはオンラインでの学科のみだった。しかし、操縦するための座学は、体験搭乗への期待をさらに高めたため、グライダーについて学ぶことに楽しささえ覚えた。その後、9月に体験搭乗を終え、晴れて航空部に正式入部することができた。

10月の初めての合宿は、グライダーの操縦が主な活動だと思っていた私にとって、とても刺激的なものだった。朝の機体の準備、訓練中の入念な点検、宿舎での仕事など、グライダーに乗る以外のことの方が何倍も過酷だった。清々しく空を飛ぶというよりは、むしろ泥臭い訓練という印象だった。しかし、その泥臭さに私は魅力を感じた。一回発航するために走って機体や器具を運んで、一つ一つ丁寧に点検して。何よりもチームワークが重要であることを実感した。そして、合宿を重ね、自分ができることが増えていくにつれてその重要さを痛感した。自分が搭乗しない時でも先輩の動きや教官の話など、訓練中は常に学べることであり、一瞬も気が抜けない合宿にやりがいを感じ、楽しくて仕方がなかった。

グライダーの操縦の仕方だけでなく、自分の行動に責任を持つことや周りとの協調性など、多くの面で自己成長できる航空部に入部して、本当に良かったと思う。

憧れた空

農学部1年 亀田 優花

初めまして、今年度から航空部に入部した農学部の亀田優花です。私は小さいころから空を飛ぶことが夢でした。幼稚園の時はジブリの「魔女の宅急便」に影響され箒で空を飛ぼうとしていました。すぐに箒で空を飛ぶ魔女はフィクションで、人間は生身で空を飛ぶことはできないと知りましたが、それでも私の空へのあこがれは消えることなく毎年七夕では短冊に「空を飛ばたい」と半ば情性で書いていました。

私が航空部を知ったきっかけは、「嵐にしやがれ」というテレビ番組で嵐の櫻井翔君が青山学院大学の航空部に潜入したのを見たことでした。それを見た私は衝撃を受けました。大学生が部活動で空を飛んでいるということは高校生の私から見ると現実味のない夢物語のように感ぜられました。それでも、航空部に入ったらそのような活動ができるのかもしれない望みにかけて私は航空部がある大学を探しました。幸いにしてその時点で第一志望校としていた九州大学にも航空部が存在することがわかりました。それからは大学に合格して空を飛ぶ自分を想像しながら長い受験生活を送りました。

努力の甲斐あって(?)無事、九州大学に合格し入学することができました。しかしここでコロナウイルスの猛威がやってまいりました。合格発表まではぎりぎり行えたものの、入学式、新入生オリエンテーションなどは全て無くなりました。前期も完全にオンライン授業となり、私は長崎に居座り続けました。部活やサークルの勧誘も自分が動かなければ何も情報が得られない状態となったため航空部しか見らずにここまで来てしまいました。ほかのサークルなどに興味がないこともなかったのですが、(どうせ入らない気がするな…)と思い、結局他の部との関わりは一度もありませんでした。

私が初めてグライダーで空を飛んだのは10月のことでした。その時初めて自分が動力のないグライダーという私の今までの人生で一番生身に近い不安定な状態で空を飛んでいることにひどく興奮しました。念願の空は、想像していたよりも外の感覚がそのまま自分にぶつかってくる感じがしました。それから何度か操縦練習を重ねて自力での旋回練習を始めたときは今までにない「自分が操縦している」感覚に気持ちが昂りました。これから更に練習をしていく中で自分ができることを増やしていきたいです。

空への道

工学部物質科学工学科1年 難波 優希

初めまして、1年生の難波優希と言います。いかにも大阪にいそうな名字をしていますが出身は全然関係なく岡山です。また名前の字面だけ見ると女性のようにも見えますが、私は男です。

私が航空部に入ろうと思ったのはとあるテレビ番組がきっかけでした。取り上げられていたのは九大の航空部ではありませんでしたがそこでの航空部の活動を見て面白く楽しそうだなと思いました。また人生の中でグライダーを操縦する機会はこの部に入らなければないだろうとも思い、その番組を見たのがちょうどなにか部活やサークルを探していた時期でもあったのでそれからオンラインの新歓グループに入り、今に至っています。

それから初めて空を飛んだときの感覚は不思議なものでした。最初にジェットコースターのようなGがかかり上昇したかと思うと、気づいたら既に空を飛んでおり妙にふわふわ

したような空に乗る感覚は何とも形容しがたいものでした。

今年はコロナの影響などで前期は活動ができなかったため、まだ合宿は久住と白川に1度ずつしか参加できていません。さらに練習許可書が届いたのはつい先日であり、まだ活動に慣れているとは言えませんが、できるだけ合宿に参加してフライト数を増やしていき、ゆくゆくはソロフライトができるように頑張りたいと思っています。

初合宿を終えて

工学部機械航空工学科1年 山下 英哲

僕が航空部に出会ったきっかけは、先に現役で九大に入った高校時代の友人（太田君）に新歓に来てみないかと誘われたことでした。元々大学では高校から続けていたバンド一本でやっていくつもりだったので正直航空部は全く頭に無く、新歓の学科も暇だから参加していたようなものでした。そんな中誘われて参加した体験搭乗で、運が良かったのか十数分ものフライトをさせてもらえ、そこから入ってみてもいいかもしれないという方向に気持ちが傾き始めました。次にやってきたのが合宿体験のお誘い。もうバンドのサークルの方には入っていて、掛け持ちするか否か悩んでいたところだったので入部前に合宿を体験させてもらえるのなら参加してから考えようと思い参加することに。そして日程調整の話をしている間に気がいたら入部ということになっていました。入るつもりが無いわけではなかったので、まあいいかと思いながら参加した12月の初めての合宿。しっかり怒られたり、注意されたりと大変なことも多かったけどやはりフライトはとても楽しいものでした。正直この先バンドとの両立がどうなるか分からないけど、お金と時間が許す限りは飛び続けたいのでここにお世話になることにしよう、そう思った合宿でした。

今年を振り返って

工学部機械航空工学科2年 青木 俊樹

僕は小さな頃から飛行機が好きでこの部活に所属しています。空を飛んだ時に見える景色、地上では体感出来ない風の感触、下を向くと自分が生活している大きな街を見下ろす不思議な感覚。僕は、そう感じられる飛行機が大好きです。

2020年2月頃から猛威を振るい始めた新型コロナウイルスの影響により、今年はなかなか思うような活動を行うことが出来ませんでした。感染リスクを避けながらの活動と言うのはあまりにも今までとは違い、予定していた機体展示等の新歓活動は一切出来ず、感染状

況が悪化し急に活動が制限されることもしばしばありました。また、親の収入減少による仕送りの減額もあって、僕は合宿や活動にあまり参加できませんでした。2月の七大戦以来、ほぼ丸一年飛べていません。

ですが、それでも僕にもやれることはなにかないか、そう日々自分自身で考え、部会での議事録作成や、友人のサポート等に専念してまいりました。議事録の作成時には、新しく入ってきた後輩の道標のような存在になれるよう、わかりやすく丁寧な言葉や表現で書くことが出来るよう心掛けております。更に、合宿に参加できない分、部長である矢野のサポートをし、陰ながら部活を支えられる存在になれるよう努力しております。

あと2年、僕にできることは些細なことではありますが、活動になかなか参加出来ないなりに自分に出来ることを探し、貢献していけるよう精一杯努力していこうと思います。

転換と今後の目標

工学部機械航空工学科2年 会計 阿部 美咲

「やっとスタートラインに立たせていただきました。今後も初心を忘れず頑張ります。」
去年12月、11回目の合宿でピスト試問に合格した時に口をついて出た言葉です。嬉しさよりも「報われた」という安心感を強く感じたことを覚えています。試問の勉強と並行して初班長の仕事と大学での試験勉強をこなしていたこともありましたが、何よりも航空部での辛かった時期を耐えてここまで来たことが無駄ではなかったと納得できたからでした。部会に参加すること自体が苦痛で堪らない時期があり、退部したいと思うことも何度もありました。それでも自分が定めた係取得の目標は絶対に達成するのだと学ぶ姿勢を崩さず、活動に関わり続けた自分を少しは褒めてもいいのかなと今では思ったりしています。部内の会計係、合宿班長、ピストとしての活動を経て現在は所属の意味を見出せるようになり、合宿を含めた活動を精力的に楽しめるようになりました。活動に関わることへの見方や考え方を転換させる出来事が多かった昨年は精神的な成長という点でも非常に有意義なものだったと振り返っています。

今年の目標はフライト技術の向上及び初ソロに出ることです。これまで教官方やOBの中島さん、上回生の皆さんにお世話になる中で学んだことは多く、今度はそれを身につけることに注力しようと思っています。もちろんこれまでも教えていただいたことを訓練の中で実践するというはやっていましたが、前述のような状況下でフライト上達に対するモチベーションがピスト教習に対するそれに比して足りていなかったことが否めません。ピスト取得に費やしていた合宿以外での自主勉強やイメージトレーニングのための時間と意気込みを、フライトをはじめ幅広く適用すればより早い上達が見込めると思います。コロナ流行の影響もあり2年次のうちに初ソロに出ることは叶いませんでしたが、今年こそは

と思いながら今後も訓練に励んでいきます。個人の活動を充実させながらも係取得（次は機体係？）を進め、これまで充分でなかった部への貢献ができればこれほど嬉しいことはありません。

拙文を最後までお読みいただきありがとうございました。

リスタート

工学部機械航空工学科 2年 太田 慎吾

2020年は大変な年でありました。空への情熱を胸にともしながら白川合宿に臨んだ1月、2月を終え、来たる七大戦を迎えんとするその時に、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界の経済や社会活動がストップしました。我々九大航空部も例外なく、しばらくの合宿禁止を余儀なくされました。そして長い自宅軟禁生活を続けるうちに、航空部員としての自覚も空に臨む情熱も次第に薄れていったのです。合宿禁止が徐々に解除され、約七か月ぶりに合宿に参加した10月、久しぶりの訓練搭乗は極めてひどい有様でした。それから私は、グライダーの訓練から逃げるようにリトカー教習をすすんで行うようになります。マニュアル操作のリトカーは、久住滑走路のこぼこオフロードを走るたびに、体の激しい揺れと反比例して私の気持ちを落ち着かせてくれました。丘の上ウインチへのリトリブは、天気が良かったことも相まって大変に心地よかったです。ちょうどその時、空では他大学の先輩が滞空していたと記憶します。思えば私がグライダーに本当に魅せられたのは、初めて40分近く飛ばさせてもらった白川でのリッジソアリングでした。それまでグライダーの訓練といえば、5分から7分で飛行して旋回の練習というのがほとんどだったので、長時間フライトを経験して、グライダーの楽しさが少しわかったような気がしました。

久しぶりの搭乗でショックを受けてから3回ほど合宿に参加し、ずいぶんあの衝撃は和らいだように思えます。徐々に合宿の開催も増え、訓練の機会を得られるようになりました。白川のリッジソアリングで見たあの山の斜面の美しさをもう一度思い出し、初心を忘れずに心を燃やしていきたいと思います。心からの「準備よし」を言えるように、今一度気持ちを作っていこうと思います。

世と空とを眺めて

工学部エネルギー科学科2年 善甫 優晟

今これを記しているのは2021年1月14日であるが、丁度1年前に、新型コロナウイルスの国内初の感染例が出たらしい。そんなニュースを昼下がりに見た。そういえば百年前はスペイン風邪だったか、疫病が世界を侵したという。歴史はくり返すというけれど、ここまで精密に繰り返すものなのかと不謹慎ながら感心を覚えつつ、まったくこの疫病には閉口したモノだとため息が漏れる。老若男女・人種・地域問わずのしかかる大変迷惑極まりない桎梏であると、こどもながらに感じている。

私には考えていた別の進路があった。そのために航空無線通信士まで取ったのである。告白すると、大学は2年で辞めるつもりであった。そうして当の2年目、この疫病に進路を潰されたのである。社会も大変なのだろうがこどもだって大変なのである。進路がなくなった私は、途端に何をするにも気概を持たず、情勢に竿さした日々を一年間も飛んできたのだ。勿論——というのもなんだか違う気がするが——航空部に対する活動意欲はこの一年でめっきり減ってしまった。昨年4月から10月まで動けなかったにしても、この一年で培うことができた情性をモチベーションに合宿に参加したり、ドライバー教習を受けたりしていたのが実情であった。そもそも部費が高すぎる。バイトもロクにできず食費を削っているような生活だというのに、どうやって合宿費その他諸々を工面しろというのか、と合宿の話が出るたびに苦虫を食い潰した。

それでも合宿に行けばそんなことは全部、グライダーと一緒に飛んでいく。2020年12月合宿に、馴染んだ情性で参加したが、ひとたび飛んでしまえば忘我の境に入る。中学の時に打った野球のホームランや、高校の時に勝利をもぎ取ったバレーのスパイクの快感とまったく異なる何かがあるのだと、毎回感じるのである。才走る同級生に感じていた劣等意識をも、丁寧に剥ぎ取ってくれる。バイト先の看護学生に内因性鬱病だと言って言われたのも気にならない。まったく失礼なヤツだったなと腹が立ってくるくらいである。兎角、航空部にかかわる皆様はどうしてこうも熱中するのが2年経ったいま漸く気づいたところである。

但し金と時間が幾らでもあるわけではない。食費を削ったところで諭吉はふたりも残ってくれやしない。加えて進路も少し考えた結果、今の専攻とは離れた場所に行きたいと考えているために、少々強いて勉める時間が必要となってきた。自分は参加が難しくなるのは目に見えている。だからといってそれを言い訳にしたいわけではない。自分よりも空にハマっているひとを参加できないなりに支援したり、それこそ自身が積極的に参加したりしたいと思う。

今年がどうなるかはわからない。ここまで感染が拡大した以上は、鎖国したところで国内において変異種が出るのも時間の問題であろうし、医療崩壊も実際に起きているうえ

に、私の身の回りでも「経済で」死人が出ているという声がちらほら聴こえる。さらに緊急事態宣言が再び発出された。冷たい風はまだまだ止みそうにないが、それでも私の大学生活である。相変わらず情勢に掉さしつつも、変わらない空を飛ぶことにかかわりたいと思う。

2年目の進化

工学部エネルギー科学科2年 望月 啓世

こんにちは、2年の望月啓世です。いきなりですが、私はポンコツといういわゆる仕事ができないヤツです。なので去年は先輩方に迷惑をかけてしまった場面が多々あり、また合宿に行くたびにフライトだか機体の取り扱いだかで注意され正直合宿に行くのがつらいときもありました。ただ飛行機が好き、飛ぶのが大好きだという気持ちだけで1年目は航空部に所属していました。

1年の終わりに現主将の矢野君に航空部の未来像を熱く語られて数少ない部員として協力したいと思いはじめました。2年になり比較的暇な私は矢野君をはじめとする新歓活動に気づいたら参加しており、9月に合宿参加許可が大学から下りた後からは他大合宿にも参加するようになっていた自分がいました。合宿に積極的に参加するようになってからは多くの知識を得ることができました。最近では離陸操作が自分一人ですることができるようになり、自分でフライトをしていることを実感できてさらに合宿に行くのが楽しくなってきました。今年は1月九大合宿以降、9月まで合宿参加ができなかったのですが22発で、去年が18発なので昨年以上に飛ぶことができたという異例でした。去年のOB会で「他大合宿にも参加して2020年のうちにソロに出る」ということを言ったと思うのですが、残念ながらこのご時世で活動をするのが難しく目標を達成することができませんでした。しかし、個人的に航空無線通信士の資格を取ることができ、将来の夢に一步前進することができました。今後コロナで先行きが見えないですが、2021年は一回一回のフライトを大切に、ソロに出たいと思っています。

最後に、ここまで続けてこれたのは小さなことから気軽に相談できる同期、私のくだらない話を笑って聞いてくださる先輩や後輩、ご指導していただいている教官、ご支援いただいているOBの方々あってこそだと思っています。今後これからも自分なりに航空部に貢献できるよう努力していきますので応援よろしくをお願いします。

航空部に入ってみて

工学部機械航空工学科 2年 矢野 智幸

こんにちは航空部 2 回生の矢野です。テルミックを書くには今回が初めてですが、航空部について思っていることなどを伝えられたらと思います。

まず、なぜこの部活に入部したかについてです。入学当初サークル部活に特に入りたいたいものではなく、もともと飛行機が好きだったので体験搭乗だけしに行こうかなと久住に GW に行ったのがこの部活との出会いでした。体験搭乗に行った後、「車を作るサークル」と「航空部」とで迷っていました。同じ日にミーティングが予定されていて、ちょうどその前日に、某堤先輩から個人で「来ない？」とラインが来たので、航空部のミーティングに行ったことにより入部したのです。本当にやりたかったのは航空部だったので正直ラッキーでした。

さて、航空部において誰もがうまくいく波とうまくいかない波を経験しがちです。フライトにおいても事務仕事においてもいい時は結構うまく進んだり教官から褒められたり、うまくいかないときは何をしてもうまくいかなかったりいろいろな人から怒られたりすることがあります。誰かに相談したり、一旦別のことに集中してみたりすることで克服することがあるなあと思っています。だからこそ部員は多い方がいいし、信頼関係も厚い方が波を超えやすいのではないかなと思います。

また、11 月には主将を引継ぎ私が主将となりました。まだ主将となり 2 カ月しかたっていないわけですが、この二カ月ついてきてくれてありがとうございます。これからもよろしくをお願いします。

真面目な話はおいといいて、これからの部活動においての目標などを考えていきたいです。まずは、この白川シーズンでソロをできるだけ貯めたいです。現在 5 発なので、20 発程度までは貯めたいです。そして久住ではできるだけ早くソロに出られるようにフライトをもっと安定させられたらと思います。係においてもリトカーしか今持っていないので他の係、特にウインチの教習を頑張っていきたいです。

来年度の新歓活動はオンライン上の活動になるのか、対面での活動になるのかはわかりませんが、今現在部員が増えているのでさらに 5 人以上入れたいです。そうすることで 3 年生までに各学年 4 名以上はいることになるので、今よりも手厚い活動体制になりさらなる発展を望めるでしょう。グライダースポーツを楽しむ人をより増やせたらなと考えています。

航空部と私

法学部 3年 河野 巧

「私はなぜ航空部にいるのだろう」

これは私が九州大学に入学してから3年間、ずっと考え続けてきた問いである。

振り返ってみると、そもそもスタートの時点でおかしかったのだ。入学当初の私は陸上部と男声合唱部に入部しようと考えていた。しかし両者の活動曜日がもろに被っており、どうしようかと悩みながらセンターゾーンの部活紹介を眺めていると、一際目立つ赤い飛行機のポスターが目に入った。私はグライダーなんて見たことも聞いたこともなかったし、特別空に憧れを抱いていたわけでもなかった。ただ私は、せっかく大学に入ったんだから何か新しいことに手を出してみたいという思いと、高校3年の時にプレステのエースコンバットに手を出し、飛行機つながりだからという安直な理由（今思えばこれが全ての元凶だったのではないか）から、その航空部とやらの教室ガイダンスへと足を運んだ。

しかしそこに居たのは、やたら話しかけてくる髪の毛の長い人と、机の上に座りスマホをいじるやたら不機嫌そうな人だった。しかも他の部員はほぼ新歓に来ない主将、逆に新歓にしか来ない法学部生、なんか南極に行くらしい院生、ほか1、2回しか会った記憶がない先輩方と、明らかにやばい人しかいない。部会は専らプレサージュの後継機の部車をどうするかで一年生は蚊帳の外。学科も今ほど充実しておらず、覚えていることはベルヌーイの定理と3次元の円運動（が全く理解できなかったということ）だけ。問題の部費は入部前に聞かされていたものよりも高く、加えて2年生以降は倍になるという極悪非道っぷり。しかも私の代では体験搭乗を実施されず、前期の合宿も全て雨で潰れ、私の初フライトは10月という、下手すれば今年の1年生と同じかそれより遅いくらいであった。このおかげか、5人は居た一回生は、夏休みを開けると2人になっていた（よく言われるが、辞めていった人たちは賢かったのだろう。実際そうだった）。他にも、九大祭には出店しない代わりにバイトして稼げと言われ特別徴収金として1万円を筆取りられ、「無線試験は覚えゲーだから」と碌な学科も無く受験させられた。七代戦はフルメン5人（と熊大生1人）で主幹をするという無理ゲーだった。しかも3年2人は常に喧嘩してるし、いつもそれを仲裁している2年は工場見学で中日しかこない。挙げ句の果てには大会後そのまま3日間部車と一緒に慣れぬ関東に放置される始末。

何とか激動の一年目を生き抜いたが、2年生になると、自分のフライトは上手いかなくなって注意を受ける日々が続くし、新入生は学科が充実したおかげもあってかどんどん成長するしで焦りを感じていた。そもそも私は性格上あまりグライダーに向いてないのだと思う。マルチタスクが苦手なため一つのことに集中すると他が全てできなくなるし、下でどんなにイメージフライトをしても飛ばばいっぱいいっぱいになって抜けてしまう。何回も飛んで体で覚えようとしても金銭事情がそれを許してはくれない。

そして私の代もついに私一人となり、同期という心の支えを失ってよいよ限界を感じた私は、夏の山滑以降いつ部活を辞めるか、ということしか考えていなかった。むしろよ

くこんな状態でここまで頑張ったなと思う。

さて、ここまで散々この部活に対する不平不満を語ってきた（というかこんなに出てくるとは思わなかった）が、それでは私がここまでのことを経験し、想いを抱えていたにも関わらず、なぜこの部活に残り続けているのか。それはこの一つに尽きると思う。

「飛ぶのが楽しいから。」

正直今でも部活を辞めたいと考えることはある。お金はかかるし、教官には散々叱られるし。合宿が近づく度に休みたい、雨降らないかなと思ってしまう。合宿の最初のフライトは毎回とても憂鬱な気持ちで搭乗している。それでも、離陸し上空の景色を見てしまうと、今まで抱えていた嫌な思いは全て何処かへ消えてしまう。こんなにも辛いし苦手なのに、どうしてそう思うのかは自分でもよく分からない。それでもただこう思うしまうのだ。「楽しい。ああ、自分はこの瞬間を感じるためにこの部活にいるんだ」と。

航空部とはなんだったのか

工学部機械航空工学科4年 溝渕 智也

バラ色のキャンパスライフを夢見ていたころからもう4年もたってしまったとは考えたくない今日この頃です。テルミックを書くのは一年生のころ以来であり、なにを書いたらいいかまったく思いつきません。今年はコロナウイルスの影響で活動がほとんどできなかったこともあり、非常に悩ましいところですが、航空部で主将を務めた時に経験したことや学んだことをまとめたいと思います。

もともと私は2年生が終わったあと航空部をやめようと考えていました。やめようとしていたのは深刻な部員不足が理由でした。部員不足に陥った原因としては航空部の特性が原因であったと考えています。航空部は空を飛ぶことができるというたった一つのために様々な仕事をこなし、学生にとっては多額な合宿費と部費を工面するという高いモチベーションの維持がなければ継続できない部活動であると個人的には考えています。空を飛ぶことにそこまでの情熱を注ぐことができなくなった部員はやめていき、活動維持のために必要な資金を少なくなった部員で確保しなければならなくなり、一人当たりの仕事量も増えます。その結果部員のモチベーションが下がり、またやめる人が現れるという悪循環が存在していました。私が3年生になったとき活動していた部員は自分を含めて5人でした。この状況下でやめることはできないと思い、私自身が主将を務めることで航空部の問題を少しでも解決できないか考えました。もともとやめようと思っていたため、最小限の仕事のみ携わり部活の運営に関わる仕事はほとんどわかりませんが反って今までのやり方に縛られず自分なりの考え方や新しい試みを取り入れることができました。そのような状況で最初に行ったことは部費の減額でした。月一の合宿に出るたびに1万から

2万円かかる上に部費で5000円徴収することはあまりにも酷であったため、部車の維持や運営に必要な資金は多いとは言え部員の負担を減らすことを優先した判断でした。次に行ったことが部員に対して航空部における各仕事全てが安全な訓練のために欠かすことのできないものであり全員が責任をもって果たさなければならないことを伝えました。部員としてのしっかりとした心構えを持ってもらいたかったからです。下級生の面倒を見る上で意識したことは仕事を任せるときは担当する人が間違いを犯しても上級生で必ずカバーできるように気を付けていました。これらの結果その年は多くの部員を獲得でき部活動の基盤を作り上げることができました。主将として活動した一年間で学んだことは自分なりの考え方を持つことは未知の問題や課題に取り組むうえで非常に重要であるということです。答えが簡単に思いつかない問題は部活を行う上で必ず現れますが、自分で解決するという当事者としての意識を忘れなければおのずと答えは見えてきます。以上が主将として経験したことと学んだことです。

この航空部にいた4年間で後悔や間違いがなかったかという嘘になってしまいますが、私は航空部において責務を果たし航空部とともに自分自身も成長できたと思っています。これからの人生を歩んでいく上で、航空部で学んだ責任感や下級生の面倒を見ることの大切さを忘れず、心の指針としていきたいです。短いようで長いような時間でしたが非常に有意義な経験をすることができました。航空部と自分を支えてくれた多くの方に深く感謝しております。本当にありがとうございました。

生存報告

理学部修士1年 松村 彩郁

こんにちは、修士1年(2021年1月現在)の松村です。実は、今年は全くと言っていいほど活動ができていませんので、今年分は書くことがないのです。新しく入って来てくれた1年生の中ではコイツ誰だ?と思うかもしれませんが一応、まだ生きています。書くことがないとは言っても幸い過去2年間はTermikも発行していませんでしたので、2年前のことについて書こうと思います。(実は去年もほとんど活動していないので)2年前は七大戦の主管をやる年でした。七大戦は主幹校が毎年順番でやっていくスタイルで、7年に一度九大の番が回ってくるというものです。それがとても大変なものでした。そんな中、その時期にちゃんと部会に出ている人(いつものメンバー)は私と溝渕氏(当時2年)と河野君(当時1年)の3人しかいないという人手不足。さらには部費の赤字で資金難。今では考えられないかもしれませんがとてもヤバい状況でした。そんな中、牧田さんと中島さんによる七大戦準備、運営の多大なご協力、OB会からの資金的なご支援(増額していただきました)により(それと熊大生のお手伝いもありましたが)何とか七大戦の運営を成功させること

ができました。感謝申し上げます。また、中島さんにはコンサルしていただき、航空部の立て直しということで2年前よりも状況は良くなっているのだろうと感じています。私は研究室のほうに忙しく、最近関わっていませんが、中島さんをはじめとして航空部の立て直しに関わった、もしくは関わっているすべての方々に感謝を述べて本稿を締めさせていただきます。ありがとうございました。

7年目の人から

工学部博士1年 堤 雅貴

OB・OGの皆様、お世話になっております。九州大学航空部7回生の堤です。私は2020年4月に九州大学大学院工学府航空宇宙工学専攻の博士後期課程へ進学し未だに現役学生と共に合宿に参加しております。様々な人の協力のもと、ライセンスを取らせていただき、現在では教育証明取得に向けて訓練をしております。まさか、自分がここまで航空部の活動が続けているとは、入部した当時は想像もできませんでした。1回生の冬の白川合宿で土手一に従事している際にソロで飛んでいる他大学の先輩のファイナルアプローチを見つ「凄いな～」と思いながらも、自分にはライセンス取得はおろかソロに出ることさえ無理だろうなと思っていたあの頃の自分を思い出すと、随分とできることが増えたような気がします。

さて、本題ですが今回は2つのテーマに重点を置いて書いていこうと思います。1つ目は現在と今後の九州大学航空部についてです。現在の状況として、現役部員数は4回生1名、3回生1名、2回生6名、1回生5名となっています。係としては、ドライバー3名、ピスト1名、リトカー1名です。また、係でない部員も2回生以上はもう間もなく係となれそうな人が多い状況です。ここ数年で見ても部員の成長度合いは非常に高い水準にあると思います。しかしながら、合宿を行う際は他大学の援助が必要な状況は依然変わりません。そのため、まずは自大学のみで合宿を行うことができる体制を整えることが当面の目標だと考えています。その後はソロに出ることができる学生を増やすこと、ライセンス取得者を増やすことが目標となってきます。そしてこのような体制を維持していくことが必要になってきます。体制の維持は非常に大変であるためOB会と現役生が一丸となって取り組む必要があると考えます。そしてできるだけ長い間、多くの部員が楽しく活動できる環境となるよう努力をしたいと思っています。

2つ目についてですが、こちらは現役部員の方々に向けたメッセージです。航空部という部活はお金もかかりますし、活動を維持するために様々な労力がかかります。大変な思いを

することもあります。滞空したり、初ソロに出たり、ライセンスを取得したりと楽しいこともたくさんあります。ぜひ、その楽しさを味わっていただきたいと思っています。皆さんが安全に楽しく活動できるよう心がけますのでこれからもよろしくお願いいたします。困ったことや分からないことがある時は気軽に相談してくれば喜んで対応します。楽しい航空部ライフを！！

最後まで読んでいただきありがとうございました。

R2 年度会計報告

2020 年 12 月 31 日
九州大学航空部会計 阿部美咲

◎各口座残高（2020 年 4 月 1 日時点）

・福銀口座	24,280 円	
・ゆうちょ口座	137,156 円	
		計 161,436 円

◎各口座残高（2020 年 12 月 31 日現在）

・福銀口座	50,480 円	
・ゆうちょ口座	521,096 円	
		計 571,576 円

◎R2 年度部会計収入一覧表（2020/4/1～2020/12/31）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
部費	-	-	12000	-	-	-	-	37200	43500	92700
OB 助成金	300000	-	-	-	-	-	-	-	-	300000
N 開発報 酬	-	109350	-	50300	3500	-	3500	-	-	166650
その他	1	-	-	30000	-	-	3	-	-	30004
各月合計	300001	109350	12000	80300	3500	0	3503	37200	43500	589354

※「N 開発報酬」とは OB 中島さんがコンサルタントとして作成中の N システムの試験運用等の活動に部員が協力した分だけ QUAC 口座に支払われる金額のことである。支払金額の半分は部員への報酬、残り半分は航空部の赤字返済に充てる金額とされ、上の表には赤字返済に充てられる金額を記載している。R2 年度各月部会計収支（詳細版）に記載されている金額もこれに同じ。

◎R2 年度部会計支出一覧表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
燃料 / 高速代	-	-	3798	-	-	9726	20220	13323	-	47067
部車保険	8400	8400	-	16800	9440	9440	9440	9440	9440	80800
駐車場代	3220	3220	3220	3200	3220	3220	3220	3220	3220	38640
自動車税	-	39600	-	-	-	-	-	-	-	39600
整備費	-	-	8498	-	-	-	-	-	-	8498
借入金 返済	-	-	-	-	114287	-	80000	-	-	194287
その他	-	-	-	440	100	-	16813	600	-	17953
合計	11620	51220	15516	20440	127047	22386	129693	26583	12660	426845

◎R2 年度各月部会計収支（詳細版）

月	日	収入	支出	項目	概要
4	1	1		その他	受取利子
	5	300000		助成金	OB 会助成金
	27		3220	部車	駐車場代
			8400	部車	部車保険代
5	1	51100		返済	N 開発報酬による借入返済金
	26		3220	部車	駐車場代
	27		8400	部車	部車保険代
	30		39600	部車	自動車税
	31	58250		返済	N 開発報酬による借入返済金
6	4	12000		部費	部費徴収
	6		3798	部車	ガソリン代
			8498	部車	部車 バッテリー交換
	29		3220	部車	駐車場代
7	1	50300		返済	N 開発報酬による借入返済金
	15	30000		その他	昨年度インカレ回収金
			440	その他	振込手数料
	27		16800	部車	部車保険代
			3220	部車	駐車場代

8	2	3500		返済	N 開発報酬による借入返済金
	17		114287	返済	借入金返済
			100	その他	振込手数料
	26		9440	部車	部車保険代
	27		3220	部車	駐車場代
9	19		2621	部車	ガソリン代
	21		3537	部車	ガソリン代
	24		2568	部車	ガソリン代
	28		9440	部車	部車保険代
			3220	部車	駐車場代
10	1	3		その他	受取利子
	2		3488	部車	ガソリン代
			1200	その他	体験搭乗費
	4		3040	部車	ガソリン代
	9		11018	機材	パラシュートリパック代
			220	その他	リパック 振込手数料
	9		1890	機材	パラシュート輸送費
	10		5451	部車	ガソリン代
	12		682	機材	パラシュートリパック代 不足分支払
	18		1800	その他	体験搭乗費
			8241	部車	ガソリン代
	21	3500		返済	N 開発報酬による借入返済金
	26		9440	部車	部車保険代
	27		3220	部車	駐車場代
11	1		600	その他	体験搭乗費
			3614	部車	ガソリン代
	6		2798	部車	ガソリン代
	8		6911	部車	ガソリン代
		37200		部費	部費徴収
	16		1692	部車	ガソリン代
	26		9440	部車	部車保険代
	27		3220	部車	駐車場代
12	13	26000		部費	部費徴収

	23	21000		部費	部費徴収
	28		3220	部車	駐車場代
計		589354	426845		

大会・合宿関係結果報告、フライト集計報告（2020年1月～12月）

2020年1月から2020年12月現在までの今年の活動を以下に記します。今年はコロナ禍で思うように活動ができず、合宿に参加できるようになったのが9月以降でした。

□1月

・九大1月合宿

3日間の合宿後のお好み焼きは格別でした！

・熊大合宿

矢野 1st、2nd ソロ

□2月

・第59回国立七大学総合体育大会(関宿滑空場)

コロナのため2日間のみ開催でした。

□3月

・コロナのため3月以降活動停止

□4月

・4月九大合宿中止

□5月

・5月九大合宿、新人講習会中止

□6月

・6月九大合宿中止

□7月

・7月九大合宿中止

□8月

・第38回山岳滑翔大会中止、8月九大合宿中止

□9月

・9月NPO合宿

大学からの許可が下り、9月NPO合宿から活動再開。4人が参加しました。

□10月

・10月NPO合宿

10月九大合宿がNPO合宿に変更となり、10名参加。1年生からは4名が参加してくれました。1日目は天候不良のため訓練はありませんでしたがその日に搭乗要領や機体の取り扱いについて上回生が1回生に説明し、翌日の訓練ではスムーズな動きをすることができました。

□11月

・11月九大合宿

ようやく主幹として今年初の合宿が行えました。

矢野が初班長を務めました。

1日目には白雲の耐空検査が行われました。

・陸送(久住→白川)

11月22日に矢野、堤、河野が陸送に参加しました。

□12月

・12月九大合宿

矢野3rdソロ、阿部がピスト係に認定されました。

また阿部が初班長を務めました。

・12月熊大合宿

矢野4、5thソロ

2020年及びこれまでの発数、飛行時間を以下に記載します。(12月13日まで)

名前	2020年発数	2020年飛行時間	総発数	総飛行時間
堤 (D1)	13	1+38	327	48+44
松村 (M1)	13	2+02	197	28+37
溝渕 (B4)	6	0+41	43	4+33
河野 (B3)	9	1+07	71	9+22
阿部 (B2)	16	3+48	25	4+47
太田 (B2)	14	1+34	26	3+43
善甫 (B2)	4	0+23	14	1+13
望月 (B2)	22	2+49	29	3+23
矢野 (B2)	36	4+00	81	9+03
亀田 (B1)	5	0+34		

※ログに記載可能なもののみ

今年度は、コロナ禍で合宿参加が半年近くできませんでしたが、学科を十分に復習して合宿に臨んだり、数少ない合宿の中で多くのものを得ようと努力したりする1年生の姿が見られました。また上回生もフライトに加えて、各々係認定を目指して合宿に参加しています。

活動風景@2020



2020年1月18-19日熊大合宿@白川。2年矢野の記念すべき初ソロ。他大の合宿にも熱心に参加した彼は成長具合が編集者とは月とスッポンである。眩しい。ちょっと写真大きめにしました。



2020年2月15日西部合同送別会。卒後もカッコいい先輩方です。



2020年2月29日@関宿。七大戦の一コマ。編集者はこのとき、航空無線通信士の試験をすぐに七大戦に参加できるように東京で受けていたのに、七大戦は結局コロナの影響で中止になった。その報は試験終わりに届き、合流できず仕舞いで非常に悲しい気持ちになったのをよく覚えている(:▽:)



2020年10月18日NPO九州合宿@久住。ログブックの記入風景。公文書ですからね。教官のサインをいただくまで気が抜けません。



2020年11月7日九大合宿@久住。左が2年阿部、右が2年矢野。積極的に参加する彼らの大きな背中には我が部のロゴマークが光ります☆ミ



2020年12月12-13日九大合宿@白川。雲仙岳を背景に飛び立つASK13。地元のカメラマンさん提供。地元の方に理解していただき、このように応援していただけることはとてもありがたく、幸せに感じます。

編集後記

遅ればせながら、2020年のThermik 2020を発行できましたのは、部長先生、監督をはじめご寄稿くださった部員の方々、そして弊誌をご覧いただいておりますOB・OGの皆様のおかげでございます。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

さて、2020年は日本だけでなく、世界中が新型コロナウイルスに怯懦した歴史的な年となりました。社会の経済活動をはじめ、学校までもひととの接触には慎重にならざるをえず、航空部といたしましても、およそ半年間の活動停止期間を経て、いまに至ります。現在、合宿での食事は自炊ではなくてお弁当を買う・訓練中はキャノピーの小窓を開ける等の感染対策を講じたうえで合宿を行っています。しかしながら、九大生の感染者が断続的に発生していたり、改めて緊急事態宣言が発出される事態となったりなどを受け、今後再び課外活動停止という措置が取られる虞も十分に考えられ、予断を許さない状況です。

そんな厳しいなかではありますが、来年度は主幹学年、新入部員ともに、ライセンス取得も含む、意欲的・積極的な活動を続けていく考えであります。それに伴いまして、主に合宿全般に係る出費の増加が見込まれております。つきましては、これまで通りのご支援賜りますようお願い申し上げます。世界がふたたび元気になった暁に、大会等で活躍できるよう、部員一同邁進してまいります。

また、Thermikに関してのご感想はじめご要望、ご意見ございましたら下記まで宜しくお願い致します。

これからの九州大学航空部のさらなる発展を切に希望しつつ、結びの言葉とさせていただきます。

2021年1月15日

編集 善甫 優晟

ご支援振込先【ゆうちょ銀行 01790-2-126772 九州大学航空部 OB会】
連絡先：善甫優晟 TEL：080-1641-6386 E-mail：Yusei10.quac@gmail.com



九州大学航空部